

今回の一流塾は、講師に齊藤惇氏(株東京証券取引所グループ取締役兼代表執行役社長)、島正博氏(株島精機製作所代表取締役社長)をお迎えしました。



齊藤氏は、『企業経営と市場経済』と題し、欧米諸国では市場経済を標榜しているが、リーマンショックで疲弊した金融機関を保護するために、政府が金融機関のバランスシートを取り込む動きが進み、国家市場主義化が進んでいる。このような状況下で、市場や企業はどうあるべきかについて、諸外国の取組事例やアダムスミスやドラッカーの理論を引用しながら自説をご披露頂きました。塾生からは、「グローバルな感覚を肌で感じられている方のお話で大変刺激になった」、「資本主義経済のリスクについて改めて考える良いきっかけとなった」等の声がありました。

島氏は、『愛・氣・創造で世界のオンリーワンへ』と題し、創業時からの発明の苦労話や、倍速人生のきっかけ、コンピュータグラフィックシステムの開発秘話等をご披露頂きました。また、相手の立場に立つ顧客視点の大切さ、夢を持ち続け努力を続けることの大切さ、時代の流れを読み価値を創造することの大切さを、過去の取組事例を交えながら述べられました。長年の経験に裏打ちされた含蓄ある言葉に、塾生からは、「モノ作りへの情熱に感銘を受けた」、「発想の豊かさに感銘を受けた」との声が多くあげられました。



また、講義後の懇親会では、安倍晋三氏(衆議院議員、元内閣総理大臣)及び今井尚哉氏(経産省 貿易経済協力局 大臣官房審議官)を特別ゲストとしてお迎えしました。安倍氏と一柳塾長は同時期に大臣秘書官を務めて以来の旧知の仲で、多忙な中ご参加頂き、総理大臣時代のご経験を踏まえて外交政策の考え方、民主党政権の外交政策に関する分析を披露頂きました。その後、塾生との記念撮影に応じて頂きました。

今井氏は一柳の通産省(現 経産省)時代の後輩で、安倍元総理の秘書官を務められていた時の秘話や、通商政策に関わる鋭い状況分析をご披露頂きました。

一流塾の志向する、「本物と出会い、本物から学ぶ」を実践する絶好の機会に、塾生からは本物に直接触れて大変感激した、もう少しお話をお伺いしたかった、等の声が多くあげられました。